
メリーVSメリー

MONSU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メリーVSメリー

【Nコード】

N8175V

【作者名】

MONSU

【あらすじ】

夢魔退治に忙しい日々、また新しい夢魔がやって来る。

しかもそいつは、相手をコピーすることができる。

そんな状況で戦うメリーの運命は・・・

(前書き)

登場人物。

メリー・ナイトメア

藤原夢路

秋柳貴照

橘勇魚

オリジナル夢魔の
マコー・ピラー

「おい！起きろ勇魚！遅刻するぞ！」

俺の名前は、藤原夢路、俺は今、橘勇魚を起こしているところだ。

「まだ寝むたいよ〜・・・グ〜・・・」勇魚は起きない・・・

「先に行ってるからな！」

俺は勇魚をおいて学校に行くことにした。

「メリー？勇魚のことたのむな！起こしてやって!!」
メリー・・・メリー・ナイトメアに勇魚を任せて。

「行ってくるぜ！おやつさん！」俺は勇魚の親父さんに挨拶した。

「勇魚はどうした？まだ寝てんのか？」おやつさんはSTO（喫茶店）の準備しながら聞いた。

「大丈夫！メリーが起こしてくれてる」

「なら、行ってこい！」

俺は勇魚を置いて、走って登校した。

朝のHRギリギリだった・・・

勇魚はと言うと・・・メリーの後ろに乗り、俺より早く登校していた。（メリーさんタクシー強いよ！）

「さあ〜授業だ〜寝よう！メリーが学校に居るから夢魔も安心だしな」

俺は眠りについた・・・

一応説明しておこう、夢魔とは、夢の中の住人で、普通の夢の中では人間には害は無いが、時に、現界うつろに來たいがために、人間の夢に寄生し、意識を乗っ取るやつもいれば、意識共有するやつもいる。最近エルクレスは灯台が、全ての人間を夢魔に入れ替えようとたくらんでいる。以上が夢魔である。

昼休みになると、大抵は秋柳タカ貴照に謎な川柳で起こされる。

「夢の字や 家宝は寝て待て それ寝すぎ 秋柳貴照」

(なんて解らりずらい川柳なんだよ)

なんて思いながら起こされる・・・

昼飯忘れた！どうしよう！なんて、頭を抱えて悩んでいると、勇魚が俺の分もおやっさん弁当を持ってきてくれていた。

「助かったぜ勇魚！お前が寝坊したお陰で助かったぜ！」

「寝坊したは余計でしょ！」なんて、会話中にトイレに行きたくなつた俺はトイレに向かう途中に・・・

デイドリームが開いた！

デイドリームってのは、起きて見る夢って意味で、その名の通り、起きて見る夢だ！

今回はどんな夢魔だ？

俺は一瞬目を疑った・・・

目の前にはメリーが二人いた。

『私が本物のメリー・ナイトメアよ!』

二人同時に言われてもねえ

『こいつは偽物よ!』

これまた同時で・・・

「この夢喰いメリーが、あんたをあっちに送り返す!」

一人のメリーが叫んだ。

もう一人は、沈黙していた。

ということ、本物と偽物の区別はついた・・・

多分相手はモノマネが得意なんだろう。

戦闘が始まった。本物メリーが優勢だろう展開だったが、偽物メリーも強い、どうやら、相手のパワーもコピーできるようだ。だが、メリーの鍵だけは、コピー出来なかった様子だ!

本物メリーは、鍵を出したが、偽物メリーは、鍵は出せなかった。だが、鍵があっても、偽者メリーとはパワーが同じで、考えもほとんど同じだから、お互い攻撃が当たらない。

「くそ！俺は、メリーを……って、俺には、あれがあるじゃないか！」

「借りるぜ……武装明晰夢（ルシッドガジェット！）」

「縛鎖！（チエイン！）」

俺は学校での夢魔退治のときと同じ武器（鎖）を出していた。

「メリー！俺も戦う！」

「夢路！あなたは、そのアンテナで、遊んででも良いわよ！自分に勝てなきゃ……エルクレスになんか、勝てるわけないじゃん？」
メリーは、戦いを少し止め、帽子を深くかぶった。

「どうしたの本物？私の能力にびっくりしたの？」

「んなわけないでしょ？あなたは、さっきまでのアタシ！アタシは、まだまだ成長すんのよ！さっきまでのアタシになんか負けるわけ無いじゃない！」

「へえ〜二時間も戦つといて、なに言ってるの……」
ゴッ！

偽物が言い終わる前に、メリーの一発が炸裂した。

（ここからは、偽物メリーを偽物、本物メリーをメリーと呼びます。

）
「あんだね？アタシが喋ってるのに、なにやつ……」

ゴッ！

「まだやるか？災厄だな！」

そう言いながら相手は変装を解いた。

「あんだ……男だったの？気持ち悪！」

「お前からコピーした力は無くなったが、こっちの方が戦いやすいしな！」

変装を解いた偽物は、頭にアンテナが2つあった……もちろんア

ンテナとは、髪の毛のことである。筋肉はそんなに無く、腕はメリ
ーより細い。だが・・・足だけはかなり太い。

「これで、余裕だろ？メリー？あんな、足だけコピー野郎、ぶっ飛
ばしてやれ！」

「そうね これで夢路の出番は無さそうね」

「俺を放置すんな！この貧乳門番！」相手は少し悲しげに叫んでい
た。

「その態度は気に入らないけど、まあいいわ。アンタの名前聞いて
なかったわね！アタシの名前は・・・まあコピーしたときに分か
つただろうけど、言わないとスツキリしないから言わせてもらっわ
、アタシは夢喰いメリーよ、お見知りおきはいらさないわ」

（でも・・・あいかかわらず、門番ってのは有名なようね）

「俺は、マコー・ピーラだ！ついでに言ってるのと、俺のコピー能
力は、一回コピーすると、二度と同じやつはコピー出来ない。だが・
・・・その夢路君はまだコピーしていない、だから変わる！」

ピーーン！

「変装！」

マコーは変装と共に俺の横にやって来て、どっちが本物か分からな
くした。

（マコーは、コピー先の現時点をコピーするから、俺がルシッドガ
ジェットで出した鎖もコピーされている）

「どっちが本物？わかんない！夢路！本物だったら、なんたらガジ
エイトやりなさいよ！」

俺は武装明晰夢をつかって、初恋薊^{ラブローズ}で、偽物の俺・・・いや、マコ
ーは軽く飛んでいった。

(そりゃ、俺は普通の人間出し、エンギとの訓練しただけだしな・・・飛ぶわな・・・)

そんなだらしのないマコーが化けた俺を見て、メリーが一言、

「夢路にそっくりね　まあ？偽物が分かればアタシ達の勝ちね！」

「夢路君、強！、人間のクセになんかいる出るみたいだし・・・

でも、その能力が無かったら弱い！弱い！それだったら、エルクレスに勝てるわけないな！」

などと言うマコーにイラついた俺が殴りかかろうとした時、

「私が今すぐ送り返してあげるわ！夢路のことは、ほとんど間違いじゃないけど、夢路といると勇気がもらえるのよ！」

そう言つて、メリーは鍵を相手に向け、マコーのふところに飛び込み一撃を与え、

「開け！」

そう言つてメリーは、門を開けた。

「アンタの扉には、鍵をかけさせてもらうわ。二度とこっちにごさせない」

そうメリーに言われたマコーは、扉がしまる前に、

「やっぱり、その程度ではエルクレスには・・・」

最後まで言い切らずに、扉・・・いや・・・鍵は閉まり、デイドリームも解除されていた。

「かなり、うざかったけど、でも、そっくりだったわね　夢路のアンテナとかさあ？完璧だったじゃん？」

「メリーのは、もっと似てたぜ？っていうか！アイツの器は、誰だったんだ？」

「さあ？そんなのどうでも良いわよ。どうせ、アタシが帰したんだから、夢は消えないしさ！」

「あ！おやつさんの弁当食うんだっ！早く行かねえと！」

「アタシにも、食べさせなさいよ」

「はいはい」

「みんな？待ったか？メリーも一緒に食べても良いか？」

それから俺達は弁当を食べて、授業が始まって、放課後が来た。

家に帰る途中・・・勇魚は、部活があるとか何とか言っつて、学校に戻った。

そして、今俺は、メリーとタカと三人で下校している。

不意に、タカが言った。

「助けてくれてありがとう夢の字。」

「俺か？いつ？どこでだ？」

「マコーからさ。」

「えー！！！！！！！！！！」

「あんだ、だったの！？マコーの器！」

「僕達は、初めは、二人で協同生活？みたいなことをしてたのさ。

・・・だけど・・・今日の朝、いきなり僕の意識は無くなって、マコーに乗っ取られちゃったんだ」

「そんな時、俺達の前でデイドリームが開いて、俺達が倒したつと。

でも・・・タカは、意識無かったんじゃないの？」

「君達がマコーを倒す一分ほど前に、目が覚めたんだよ」

「それだったら、起きたときに何か言いなさいよ！」

「ごめんね、僕にはそこで話す勇氣は無かったんだよ。」

タカの一言で会話は終わった・・・その時、またデイドリームが開いた。

「今度は、どんなやつだ？まあーどんなやつでもメリーが送り返すから関係無いけどな！」

(後書き)

どうでしたか？

短編のクセに2000文字越えたヒドイ話しは・・・

とにかく、マコーが夢路に化けたのは、バカですね！自分で書いたクセに、大爆笑でしたよ！

何はともあれ、ご清聴？ありがとうございました！

「壁」 (キラーツ)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8175v/>

メリーVSメリー

2011年11月11日13時44分発行